

# エージェント・オレンジ

熊谷 博子

東京新聞 夕刊コラム『放射線』（現・『紙つぶて』） 2007年5月28日

「エージェント・オレンジ」とは、ベトナム戦争で化学兵器として使われていた枯葉剤だ。同名のドキュメンタリーを観た。

作った坂田雅子さんは、4年前に54歳で亡くなった報道写真家、グレッグ・デビス氏の妻だ。結婚する時、ベトナムで枯葉剤を浴びているので子どもは作れない、と言われたそう。死因は肝臓がんだった。

彼女は悲しさを乗り越えるために、ベトナムで自らカメラをまわした。枯葉剤の被害者が孫の代まで及んでいることに、私も衝撃を受けた。作品の根っこに、怒りと疑問と大きな人間愛があった。秋以降に公開されると思うので、ぜひ観てほしい。

私自身も“日本のエージェント・オレンジ”を追ったことがある。ベトナムでの枯葉剤の使用は1971年までの10年間。76年にイタリア・セベソで農薬工場が爆発し、深刻なダイオキシン汚染が起きた。そのドキュメンタリーを、日本の状況も合わせて放映することにした。

実は67年から70年に、日本の国有林でも、エージェント・オレンジの主成分である農薬、245Tがまかれていた。この時期、下北半島の奇形ザルなど、散布地域で動物の異変が報告されている。使用禁止となり、あまったダイオキシン入り245Tを詰めたドラム缶は、ひそかに全国の国有林に埋められた。

私がこの作品をまとめていた84年、その一つが愛媛の山林から、研究者の手で発見された。缶は腐って穴があき、農薬がもれていた。しかし他の多くの245T缶は、どこに埋められたのか今もわからない。

坂田さんの映画の最後の方、ダイオキシンの被害を受けたベトナムの山林を見た時、日本の山林がだぶって見えた。